

令和4年(2022年)12月16日(金曜日)

三島市長選終盤情勢

豊岡氏、石井氏横一線、近藤氏追う

任期満了に伴う三島市長選は、18日に投開票を迎える。公明党県本部、連合静岡の推薦を

| | | |
|--|--|--|
| 石井 いしい 真 まさと 人 ひと 氏 し 無新、43歳 | 豊岡 とよおか 武 むし 士 し 氏 し 無現③、79歳 | 近藤 こんどう 正 まさ 文 ふみ 氏 し 無新、46歳 |
|--|--|--|

を受けて4選を目指す現職豊岡武士(79)と、日本維新の会、自民党三島市支部が推薦する新人の元市議石井真人氏(43)が激しく競り合い、横一線のまま終盤戦に突入した。新人の会社経営近藤正文氏(46)は支持が広がっていない。

3期12年の実績を訴える豊岡氏は、市内で幅広い団体の支援を受けて組織戦を展開する。市民の関心が高い三島駅南口の再開発事業には「推進」の姿勢を

明確にし、高い知名度を生かしながら支持を呼びかける。後援会もフル回転して草の根活動を続け、全域での浸透を図っている。

石井氏は告示前から所属する政治団体が街宣車を走らせ、現職に劣る知名度の不足を挽回。4年前の市長選で戦った宮沢正美県議の支援も受け、2連ボスターを市内全域に貼り出すなど共闘の姿勢を鮮明にした。「市政刷新」を旗印に、S

NSも駆使して票を掘り起す。

近藤氏は、現在は18歳未満が対象の医療費無料化を父母にまで拡充し、子育て世代の人口を増やして地域経済の活性化につなげる政策を訴える。駅前再開発には候補者で唯一「反対」の立場。組織に頼らず遊説や街頭演説を繰り返すものの、大きな支持獲得には至っていない。

主な争点は、三島駅南口再開発事業の是非など。選挙への有権者の関心は低調で、投票率は前回選(49・83%)を下回るとの見方が強い。当落ラインは1万9千票前後になりそうだ。